

大雨による災害に備えて

大雨により洪水や土砂災害が発生しやすくなります。2004（平成16）年の台風第23号は、河川の増水や土砂災害などで兵庫県内の各地に大きな被害をもたらしました。大雨による災害から安全に避難するために必要なことを考えてみましょう。

1. 早めの避難

洪水や土砂災害の危険性が高まり、避難が必要な場合は、市長・町長が住民に対して避難情報を伝えることが「災害対策基本法」などで定められています。避難情報は、防災行政無線（スピーカー）、役所の広報車、消防団などにより伝達されます。これらの情報を聞いたなら、指示に従い、安全なところに避難しましょう。

また、台風や豪雨に対しては、テレビやラジオなどの情報から、事前に接近する時期や規模のある程度予測し、備えることが可能です。自らの判断で早めに避難しましょう。



大雨で警戒水位を超えた千草川
(洲本市 2004[平成16]年台風第23号)



土砂災害により家屋倒壊
(淡路市 2004[平成16]年台風第23号)

路上浸水時に避難する場合

- 単独行動はせず、隣近所で声をかけ合い、集団で避難するようにしましょう。また、互いの体をロープで結んでほぐれないようにしましょう。
- 履物は、ひもで締められる運動靴にしましょう。素足や長靴は禁物です。
- 水面下はマンホールや側溝などの危険があります。棒などで安全を確認しながら歩きましょう。
- 路上の水の流れが速い場合は、屋外避難は危険です。特に夜は、深みや速い流れの位置がわかりません。こんなときは、無理をせず2階に避難しましょう。平屋は危険なので、隣近所の2階に避難させてもらいましょう。



避難情報の種別と意味

区分	発令時の状況	住民が取るべき行動
避難準備情報	●災害時要援護者等、特に避難行動に時間を要する住民が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が高まった状況	●災害時要援護者等、特に避難行動に時間を要する住民は、計画された避難施設への避難行動を開始（避難支援者は支援行動を開始） ●上記以外の住民は、家族等との連絡、非常用持出品の準備等、避難準備を開始
避難勧告	●通常の避難行動が可能な住民が避難行動を開始しなければならない段階であり、人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	●通常の避難行動が可能な住民は、計画された避難施設等への避難行動を開始
避難指示	●前兆現象の発生や、現在の切迫した状況等から、人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況 ●人的被害の発生した状況	●避難勧告の発令等により避難行動中の住民は、速やかに避難を完了 ●いまだ避難していない住民は、直ちに避難 ●避難のいとまがない場合は、生命を守るための最低限の行動が必要

(出典：兵庫県「避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン（水害・土砂災害編）」)

2. 土砂災害の前兆現象

土砂災害が発生する可能性のある地域に住んでいる場合、天候などの状況に応じて、適切な避難行動が取れるようにしておきましょう。

- あらかじめ住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか、兵庫県CGハザードマップなどで確認する。
- 大雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する。
- 土砂災害警戒情報が発表されたら早めに避難する。
- 土砂災害の前兆現象が現れたら、すぐに安全な場所に避難する。

土砂災害の前兆現象

土砂災害には「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」などがあり、これらが発生するときには、多くの場合、何らかの前兆現象が現れます。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、いち早く安全な場所に避難することが大切です。

がけ崩れ	地すべり	土石流
斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然、崩れ落ちる現象である。崩れ始めてから、崩れ落ちるまでの時間がごく短く、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、人命を奪うことの多い災害である。	斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象である。移動する土塊の量が大きいため、甚大な被害を及ぼす。	山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象である。時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまう。
がけ崩れの前兆現象 ●がけにひび割れができる。 ●小石がパラパラと落ちてくる。 ●がけから水がわき出る。 ●わき水が止まる。 ●わき水が濁る。 ●地鳴りがする。	地すべりの前兆現象 ●地面がひび割れたり陥没したりする。 ●がけや斜面から水が噴き出す。 ●井戸や沢の水が濁る。 ●地鳴り・山鳴りがする。 ●樹木が傾く。 ●亀裂や段差が発生する。	土石流の前兆現象 ●山鳴りがする。 ●急に川の水が濁り、流木が混ざり始める。 ●腐った土の匂いがする。 ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる。 ●立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる。

(出典：政府広報オンライン「土砂災害の危険は全国に52万箇所！ 土砂災害から身を守る3つのポイント」)

【早めの情報提供で被害を防ぐ】

2011（平成23）年9月の台風第12号で、三重県尾鷲市は4日早朝、河川流域の住民に避難勧告を出しました。その2日前、大雨警報、暴風警報が発令されたときに、Eメールで登録している市民約1,700人に明るいうちに避難を勧める内容のメールを配信し、防災無線でも市民らに避難を呼びかけていました。その結果、早めの情報提供が高齢者らの早期の避難行動につながり、大きな被害は出ませんでした。